

県北管内感染症ニュースレター

令和7年度 第3号

「夏かぜ」の流行しやすい時期に突入しました！

この時期は、「夏かぜ」といわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱（フルル熱）」等が流行します。「夏かぜは、こどもがかかるもの」という印象が強いですが、**大人もかかることがあります**。

夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに何回もかかる恐れがあります。

病名 項目	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	RS ウイルス感染症
病原体	エンテロウイルス コクサッキーウイルス エコーウイルス	エンテロウイルス コクサッキーウイルス	アデノウイルス	RS ウイルス
感染経路	咳・くしゃみなどによる 飛沫感染 、ウイルスの付着した手指や物などを介した 接触感染 糞口感染 (便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)			
症状	発熱(微熱) のどの痛み 水泡性発疹 (口の中、 手のひら、 足の裏や甲など) 	発熱(高熱) 食欲不振 頭痛 全身のだるさ のどの水泡・痛み 	発熱(高熱) のどの痛み 結膜炎 (かゆみ、痛み、充血) 腹痛・下痢 	発熱 鼻汁 咳 
治療方法	症状に応じた治療(対症療法) 対症療法:発熱・のどの痛み⇒解熱・鎮痛剤 発疹⇒軟膏剤			
感染対策	・手洗い ・うがい ・手指消毒 ・よく触れる物のアルコール消毒 ・換気 ・咳エチケット(場面に応じたマスク着用) ・タオルは共有しない     咳エチケット マスク着用 手洗い 換気			
注意事項	※ <u>便が付いたおむつや下着などに触れた後は、しっかり手洗いをしましょう。</u> ※ 発熱や咳に加えて、 <u>呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状が見られたら、すぐに医療機関に相談しましょう。</u>			

現在、全国的に流行している「百日咳」も**基本的な感染対策が重要**です！！
気温が高くなり、マスクの着用が厳しい季節ではありますが、「**医療機関を受診する時**」、「**(特に高齢者・妊婦・免疫力が低下している方が)混雑した場所にいく時**」は**可能な範囲でマスクを着用**しましょう！



海外へ渡航される皆様へ！



海外で感染症にかからないようにするために、渡航前に感染症の正しい知識と予防方法を確認して準備をしましょう！

<海外での感染症予防ポイント>

- ①渡航地や渡航先での行動によって異なりますが、感染の可能性が最も高いものは食べ物や水を介した消化器系の感染症です。
生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避け、また食事は十分に火の通ったものを食べましょう。
- ②日本で発生していない、動物や蚊・マダニなどが媒介する病気が海外では流行していることもあります。蚊・ダニに刺されないように服装に注意し、虫よけ剤等を使いましょう。
また、**動物**は、狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、**むやみに近寄ったり、触らないように**しましょう。
- ③人から人に広がる感染力の強い麻しん（はしか）、風しん及びポリオが流行・発生している地域があります。咳や発熱、発疹などの症状がある方との濃厚な接触は避けましょう。
麻疹・風疹は、ワクチン接種で予防できる病気なので、接種歴を母子手帳などで確認し、まだ受けていない場合は、時間に余裕をもってかかりつけ医に相談しましょう。



<帰国時・帰宅後に体調が悪くなったら…>

- ・帰国時に発熱や咳、下痢などがある方や動物に咬まれた、蚊に刺されたなど**心配なことがありましたら、検疫所へ相談**しましょう。
- ・帰国後しばらくして帰宅後に具合が悪くなった場合は、**海外へ行ったことを医療機関に伝えた上で受診**しましょう。
- ・**仕事で多くの人と接する機会のある方**（特に保健・医療・福祉職）は、高齢者等のハイリスク者に感染を拡大させないことが大切です。自覚症状がある場合は、無理に出勤せず、医療機関を受診して検査を受ける等、健康管理を心がけましょう。

※～医療機関の方へ～※

海外や大阪・関西万博等に行かれた方から有症状の相談があった場合は、**診察前にまず保健所へご連絡**ください。



海外で注意が必要な感染症やその予防方法など詳しい情報は、「**FORTH**」で検索すると確認できます！

発行日：令和7年6月26日

発行元：福島県県北保健所医療薬事課

住所 〒960-8012 福島市御山町8-30

電話 024-534-4113

ホームページ：検索キーワード

県北保健所